

令和7年度卒業生・修了生調査協力者会議  
議事要旨

開催日時：令和7年12月13日（土）10：00～11：30

開催場所：Webexを用いたオンライン開催

出席者：【学部卒業生】

課程長からの推薦者14名（令和4年度～令和6年度の卒業生）

【本学】

堀内淳一総合教育センター長、森田辰郎学部長・研究科長 他 11名

陪席者：学務課職員6名

## 1. 開催趣旨

本学の学部卒業生、大学院修了生を本学に招へいし、授業内容・方法や学生生活等に関する事項について調査する。卒業生の体験に基づいた意見を参考にすることで、今後の本学の教育内容・方法の改善に役立てる。

※冒頭、堀内総合教育センター長からの挨拶に続き、学部卒業生が自己紹介を行った後、森田学部長・研究科長から本日の進行について説明があった。

## 2. 意見交換要旨（●は卒業生、○は教員）

○今回、事前アンケートをもとに①あった方が良かった科目について、②博士後期課程への進学について、③ダブル・ディグリー等のプログラムについて、の3つの話題を取り上げたい。出席いただいたすべての卒業生にお話したいと思っている。どんな意見でも参考になるので、思っていることを遠慮せず話してほしい。

### 【①あった方が良かった科目について】

○近年、授業の編成が多くされているが、こんな授業があれば良いなどあるか。

●（応用化学課程卒業生）化学分野の実験で使用する解析などの数学の授業があると良い。あまり学ぶ機会がないまま研究が始まったが、研究を進めるにあたって必要なため、必修にした方が良いと思う。

○化学系の数学のガイドラインみたいなものがあるほうが良いということか。

●あるほうが良いと思う。

●（機械工学課程卒業生）TOEICに向けた英語の授業は充実しているが、論文など研究分野の専門英語を学ぶ授業があるほうが良い。

○大学院の機械物理学専攻及び機械設計学専攻にある「Technical Writing &

Communication」ではそのようなことを行っているが、英語科としての意見はあるか。

○科目を新設し、すでに対応は済んでいる。

●（応用化学課程卒業生）大学院に進学し、データ処理やプログラミングが必要な研究を行っているが、学部時代にこれらが学べる授業がなかった。データ処理の能力が学部時代に養われるような授業があったら良いと思う。

○科目を増やすことで学生の負担が増えると考えているがどう思うか。

●1回生で必修の「情報処理演習」（現「情報データリテラシー演習」）の内容が薄く感じたため、そこに組み込めば良いと思う。

●（電子システム工学課程卒業生）「プログラミング演習」ではC言語を習ったが、研究では主にPythonを使用している。Pythonも学べたら良かった。

●（情報工学課程卒業生）個人で実験等を進めてレポートにまとめる演習が多かったため、複数人のチームで開発等ができる演習があれば良いと感じた。実際の研究では一人ではなく複数人で行うことが多いため、その練習にもなる。

○機械工学課程だとそのような授業はあるが、情報工学課程だとテーマ設定が難しいのかもしれない。具体的にどのようなことが思いつくか。

●個人で取り組むよりも大きい規模のシステムをチームで作成するなどが考えられる。

## 【②博士後期課程への進学について】

○現状として、本学の博士後期課程に進学するための充実した制度がある。しかし、進学の妨げになる要因は他にもあるため、どのようなことがあるか聞きたい。

●（応用化学課程卒業生・来年度に博士後期課程へ進学予定）授業料全額免除の情報は研究室に入ってから知ったため、配属前は経済的な不安が大きかった。進学者が少なく情報が入手しづらいこともあり、いっそう不安を覚える学生が多い印象がある。

○免除制度等については学部生向けにも発信しているが、伝わっていないか。

●研究室に入るまでは全く知らなかった。

●（機械工学課程卒業生）制度については学部生の時に聞いていたため知っていたが、他大学の先輩から博士後期課程に進学しても就職に有利に働くわけではないことを聞き、博士後期課程進学に良いイメージがなかった。

○では逆に、博士前期課程への進学は就職に有利になるのか。

●学部卒と比べて有利になるイメージがある。もともと6年のつもりで入学している学生も多い。博士後期課程に進むとむしろ不利になるイメージがある。

○研究の魅力で進学しようとはならないのか。

●魅力があっても、修了後の就職先や社会に出るのが遅れることへの不安のほう大きい。教授を目指す人が進学するイメージで、修了後の就職につながるイメージがわからない。

●（応用化学課程卒業生・来年度に博士後期課程へ進学予定）私自身最後まで就職か進学か悩んだ。ただ、本学の授業料免除制度はかなり大きかった。この制度がなければ進学してい

ない。また、私は研究の楽しさから進学することを決めたが、就職等の不安がなければ進学する学生も増えるのではないだろうか。進学するメリットとデメリットの両方をフラットに聞ける場が必要だと思う。

○企業とのマッチングや手厚い相談などを行っているところもあり、就職については問題なく進めているように思うが、取り組みは伝わっていないか。

●研究室配属後は情報が届いているが、学部生へのメッセージが少ない。研究室配属後と博士前期課程の3年間で決めるのは、考える時間が短い。学部生の早い段階で博士後期課程進学の制度等を伝えるべきだと思う。

○博士後期課程への進学は個人的な挑戦にもなり敷居が高いかもしれないが、まだ時間がある人は選択肢として検討してほしい。

### 【③ ダブル・ディグリー等のプログラムについて】

○海外留学に行く学生を増やしたい思いがあり、留学に関しての取り組みをしてきたが、利用しにくい、敷居が高い等の留学をしない要因はあるか。

●（応用化学課程卒業生）制度は知らなかった。また、在学中はコロナが蔓延していたこともあり、留学したい気持ちはあったが、機会がなかった。しかし、4回生に留学している友人もいた。

○具体性をもって制度が伝わっていなかった。ダブル・ディグリープログラムから話題が逸れるが、留学したい気持ちがある学生はいるか。

●その気持ちがある学生は多かったが、行動している人は少なかった。

○もしお金がかかるとしたら、やはり留学はためらうか。

●多少は大丈夫だが、補助があったほうが行きやすくなると思う。

●（応用化学課程卒業生）学部生の時は制度を知らなかったため、より周知したほうが良い。今は研究室の先輩がダブル・ディグリープログラムで留学しているため知っているが、そうでなければ今も知らないままだったと思う。

○やはり伝わっていないか。

●張り紙やメールは気に留めない学生が多い。出席必須の対面イベントでなければなかなか伝わらないと思う。

●（建築コース卒業生）デザイン・建築学課程の学生にはダブル・ディグリープログラムやジョイント・ディグリープログラムなどの留学制度は浸透していると思う。自分はインターンの留学に関心があったが、周囲にはダブル・ディグリープログラムに参加している友人もいた。ただ、国による生活水準の差異もあるが、留学費用の補助が充実している留学先はヨーロッパが多く、近年興味を持つ人が増加している東南アジアへの留学補助が少ないように思う。

○全体としてはヨーロッパ志向か。

- その人の建築様式の好みや将来像による。体感としてはヨーロッパと東南アジア半々。
- （デザインコース卒業生）学部のオリエンテーションで聞くため知名度は高い。留学しない理由は、3×3 制度と関係がある。ダブル・ディグリープログラムで留学する場合は研究室を変えなければならないが、3×3 制度で大学院に進学する場合は研究室を変えることができない。デザイン・建築学課程では3×3 制度での進学者が多い。
- システムのことも考えていかなければならない。現在応用生物学課程にはダブル・ディグリープログラムはないが、あれば行きたいと思うか。
- （応用生物学課程卒業生）自分は就職したが、もし大学院に進学して研究に興味を持っていれば検討していたと思う。また、留学しやすい制度があれば行きたい。
- 海外で研究するイメージはつくか。
- （応用生物学課程卒業生）現在海外の方と共同で研究をしており、来日してもらうこともあるためイメージは持てる。また、留学して肌で触れてこそ培われる力があると思う。
- 電子システム工学課程の研究は海外とのつながりが深いと認識しているが、どう思うか。
- （電子システム工学課程卒業生）電子システム工学課程にも制度がないためダブル・ディグリープログラムについて初めて聞いたが、視野が広がるだろうから良いと思う。学会で海外に行くことも多く、自分の周りにも海外に興味を持っている学生はいる。
- 本プログラムは研究だけではなく、授業も受けなければいけないがどうか。
- いろんな視点や、向こうの生活もわかるだろうから良いと思う。
- 留学するとして不安な点は他にあるか。
- （情報工学課程卒業生）言語面での不安の声があるため、英語のサポートが必要だと思う。
- 本学が英語教育を重点化しているのは、海外での研究や授業を受けることを想定していたが、その意図を感じることはなかったか。
- 英語は授業だけでなく、自分から勉強していくことが大事だと考えている。授業内容よりは、勉強への意識づけができるようなことをするのも良いと思う。

#### 【④その他】

- 本学の良かった点や要望などはあるか。
- （応用化学課程卒業生）良かった点は小規模な大学のため、教授との距離が近いこと。要望としては、施設の老朽化が激しく、どこか設備にお金をかけているか、なぜその順番で改修工事をしているのかわからないため透明性を確保してほしい。具体的には 2 号館に談話室ができたが、これをなぜ作ったのか、他に改修すべき場所があるのではないかと思った。
- 学生が勉強できるスペースが重要とされて作られたのだろうが、意図が学生に伝わっていないのかもしれない。
- （応用化学課程卒業生）良かった点は入学後に希望分野を選択でき、最終的な研究室もゆっくり選べるができること。要望としては、夜間の通行の安全のため、外灯を増やして

ほしい。特に2号館南側は外灯が少なく通路の段差等が見えず危ない。また、研究室の天井が雨漏りしており、実験をしていると危険を感じる。また、駐輪スペースから近い門は、金曜日に早く閉まったり、土日は閉まったりすることがある。通行可の道と不可の道を分けることは安全には良いとは思いますが、動線を改善してほしい。自転車使用の緩和をすると、規定を守って使用する者が増えるのではないだろうか。

●（応用化学課程卒業生）12号館2階に休憩スペースができたが、Wi-Fi未設置だったため事務へ報告したところ設置してもらえたことがあった。このようなことはどこに相談したら良いかわからない場合が多い。

○どこに行っても、担当部署に案内してもらえるので、どこでもいいから行ってみたい。

●どこに相談してもよい、ということが聞いていないと、最初どこに相談するかというハードルがあるため、「何かあったらここに聞いて」というメッセージがあったら良い。

●（電子システム工学課程卒業生）バイクの駐輪場の使用を申請でき、バイク通学できる距離は1キロから10キロと定められている。この圏内は自転車通学の学生が多いのではない。バイクを使用したい学生はもっと遠いところに住んでいる。制限により電車通学せざるを得ず、金銭的に負担がある。以前相談した際は、安全のためと回答があったが、安全に関しては個人の技量によるものと認識している。制限を緩和してほしい。

○安全のため、というのは回答が誤っている可能性もある。通学に関しては学生だけでなく教職員共通の可能性があり、変えるのは難しいかもしれないが、検討する。

○応用化学課程の研究に必要な数学・データ処理の授業が不足しているという指摘については最もだと思う。現在、「実験解析」という授業でこれらを扱っているが、Bコース専門の科目となっており、授業の対象となる学生を応用化学課程全体に拡大するのも良いかと思う。

また、「情報処理演習」（現「情報データリテラシー演習」）ではかなり入門的なことを行っているので、プログラミングは1・2時間ぐらいしか講義で取り扱うことができず、役に立つまでの勉強までには至っていないのかもしれない。データ処理関係の先生にも伝えておく。グループワークの演習が不足しているという意見については、「リーダーシップ」などの授業で賄えたらと考えているが、1・2回生の全課程対象の科目ということもあり専門性が不足している。グループワークを行う専門性のある授業科目があれば良いと思った。ダブル・ディグリープログラムと3×3制度の問題については、応用化学課程には存在しない。

○ダブル・ディグリープログラムと3×3制度の問題は、デザイン・建築学課程の研究室配属特有のこととして認識している。

以上

## 令和7年度卒業生・修了生調査協力者会議アンケート集計表

## 1. 授業では次のことがどれくらいありましたか。4段階で評価してください。

	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった
①出席が重視される	2	11	0	1
②授業内容に興味がわくよう工夫されている	1	12	1	0
③グループワークなど、学生が参加する機会がある	1	5	7	1
④授業中に自分の意見や考えを述べる	1	3	9	1
⑤メールやWebを利用して教材や課題が提供・返却される	11	2	1	0
⑥予習や復習が求められる	3	9	2	0
⑦適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される	1	6	6	1
⑧最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される	8	6	0	0

## 2. 授業では次のことがどのくらい重視されていましたか。4段階で評価してください。

	とても重視されていた	ある程度重視されていた	あまり重視されていなかった	ほとんど重視されていなかった
①事実や概念、方法を理解する	6	8	0	0
②理解を深めるために具体的な事例などを分析する	1	10	3	0
③いろいろな情報や方法を組み合わせて理解・分析する	1	9	4	0
④ものごとを批判的に検討しながら判断する	3	5	6	0
⑤学んだ理論や概念を異なる場面や実践に応用してみる	1	8	5	0

## 3. 次の点で授業は、どのくらい役立ったと思いますか。4段階で評価してください。

	とても役立った	ある程度役立った	あまり役立たなかった	ほとんど役立たなかった
①幅広い知識や教養	3	11	0	0
②理論や概念を使って理解・説明する力	4	9	1	0
③将来の職業に関連する知識や技能	3	8	2	1
④問題や課題がどこにあるかを見つける力	3	10	1	0
⑤問題や課題を解決するための方法を見つける力	6	7	1	0
⑥ものごとを分析的・批判的に考える力	5	6	3	0
⑦新しいアイデアやものの見方を生み出す力	2	9	3	0
⑧自ら積極的に学ぶ力	3	8	3	0
⑨ものごとをやりとげる力	5	9	0	0
⑩論理的に文章を書く力	7	4	2	1
⑪人にわかりやすく話す力	4	7	2	1
⑫他の人と協力して作業ができる力	2	8	3	1
⑬異なる意見や立場を受け入れる力	1	8	4	1
⑭外国語を読む力	2	6	4	2
⑮外国語で意思疎通する力	2	2	7	3

（一番多い回答を濃い色、2番目に多い回答を薄い色で色付けしています。）

4. 貴方が学ばれた授業科目のうち、興味が湧いた印象に残っている科目や、現在の職務上(修学上)役立っていると思われる科目がありましたか。具体的な授業科目名と、どのような教育内容に興味を湧いた、又は役に立ったと考えたかをご記入ください。(複数回答可)

■興味が湧いた科目

	授業科目名	どのような教育内容に興味を湧いたか
1	創造設計製図演習	班ごとに協力して一つのものを作り上げる内容。一人で行うより複数人で行う方が、相談などがしやすくお互い高めあえると感じた。
2	京都に関する科目	京都の地勢や文化、歴史などを扱う授業は、地元の京都について改めて深く知る機会になったので興味深かったです。
3	デザイン方法論	デザイン方法論について、理論を授業で教えていただき、宿題でそれを実践する、というような流れができており、より深く理解ができるようになっていたと思います。宿題は学生それぞれの個性が発揮されるようなものが多く、学び合いという点でもとても興味深い授業でした。
4	有機化学Ⅱ	有機化学における反応機構を、電子の動きを矢印で示しながら体系的に理解できることを学び、これまで曖昧だった化学反応の流れが初めて明確に掴めたと実感しました。
5	遺伝学	遺伝子の働きやそれに伴う表現型の変化、トランスポゾンの存在。
6	神経科学	具体的には覚えていないが、脳の疾患や発達についての講義に興味深く面白かった。
7	プラズマ工学	プラズマがどのようなもので、どのような使い道があるのか、知れることに興味があった。
8	プロジェクト実習1～3	幅広い内容を取り扱う情報工学課程において実際に研究室ではどのようなテーマについて取り扱っているのかを実習を通して知ることができた。
9	精密合成化学	合成スキームを検討する際に非常に役立っている。
10	電子システム工学実験及び設計I,II	ほかの講義形式の授業で学んだことを、実際に実験をすることができる機会であり、楽しみながら実習ができる内容に興味をわいた。
11	プログラミング演習	演習形式の授業で、プログラミングを学ぶことができる内容に興味をわいた。
12	地球環境論	増え続ける化学物質の種類や特性、それらが環境に及ぼす影響について体系的に学べた点が特に印象的であった。日常生活と密接に関わるテーマであり、自分自身の行動とも結びつけて考えることができたため、より深い関心を持つようになった。
13	情報処理演習	普段触れる機会の少ないPythonを基礎から学び、生物学のデータ解析へ応用する体験ができたことが新鮮だった。プログラミングが研究にも直接活かせると実感し、さらに知識を深めたいという意欲につながった。

# ■役に立った科目

授業科目名	どのような教育内容が役に立ったか
1 知的財産に関する授業	学生が知っておくべき内容だと思うので、私は非常に有意義な授業だったと感じています。
2 プロジェクトデザイン等のデザイン実習	様々な分野のデザインについて実践を通して学ぶことができ、それが、分野にこだわらず課題解決に最適なデザインを探す今の姿勢につながっていると思います。また、グループワークを数多く経験できたことが、研究室でプロジェクトを進行する上で、役に立っていると感じています。
3 分子量子化学	シュレディンガー方程式をはじめとする量子化学の基礎を改めて学び直すことで、有機化学の反応における分子軌道の概念をより深く理解できました。また、軌道の概念が反応選択性の理解にも応用できることを知り、量子化学とさまざまな化学反応とのつながりを実感する良い機会となりました。
4 固体物性論	無機材料中における電子の振る舞いについて学ぶ中で、逆格子空間の概念や状態密度、バンド構造といった固体物性に関わる重要な考え方に触れることができました。これらの概念を知ることで、材料の特性を考える際の視点が広がり、現在取り組んでいる研究にも役立っています。
5 分子生物学実験(学生実験全般)	ピペットマン等の基本的な器具の使い方や吸光度測定の方法。
6 フォトニクスⅡ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーザー発振現象の基礎を復習する。</li> <li>・各種発光材料の特徴、光半導体のバンド構造と物性を理解する。</li> </ul> 自身は光に関する研究をしており、この授業の中で光と物質の相互作用の基礎や、半導体レーザーなどの光デバイスの基礎を学ぶことができ役に立った。
8 言語処理プログラミング	ある程度規模の大きいプログラムを作成することでこれまで学んできたプログラミングに関する知識を整理したり、わかりやすくプログラムを作成することの重要性を学ぶことができた。
9 プロジェクト実習	プロジェクト実習では、毎週レポートを提出する必要があった。この経験により、物事に粘り強く取り組む力が育まれた。この力は大学院での研究活動に大変役立っている。
10 電気エネルギー工学	自身の就職がパワーエレ関係で、この授業ではその基礎を学ぶことができ役に立った。
11 学術国際情報	生物学の専門用語や表現を英語で体系的に学ぶことができ、現在の英語論文の読解力向上に大きく役立っている。文献調査や研究活動を進める上で欠かせない基礎力を身につけることができた。



5. 現在の職務(修学)を行ううえで、こんな授業科目があればよかったと思われたことはありましたか。具体的な授業科目名と、その教育内容をご記入ください。(複数回答可)

	授業科目名	どのような教育内容を希望するか
1	所属する分野についての専門性を高められるような科目	3回生時に配属される専門分野について、その基礎を学ぶことができる科目がもう少し充実していれば、より専門性が深まったのではないかと感じております(私はプロダクトデザインの分野であるため、3Dモデリングや、造形の考え方、素材と造形の兼ね合いなど)。学部時代は、実践を通して学ぶ機会が多く、現在大学院でも、産学連携プロジェクトを通して学んでいます。基礎を築いてから、実践にうつることができれば、よりスムーズに実践に進むことや、より深い学びを得ることができるのではないかと考えています。
2	化学データ解析演習	統計的手法およびプログラミング等を用いたデータ処理・可視化について学ぶ授業があれば、研究を進める上で非常に役立つと思います。実験の再現性評価や統計解析を実践的に扱う内容があるとよかったです。
3	表面化学	固体表面での化学反応の仕組みや、吸着・反応速度・表面エネルギーなどの基礎概念を体系的に学べる授業があればよかったと感じます。特に、固体表面と分子の相互作用を理解することで、材料設計や触媒開発などの応用に役立つ知識を深められると考えます。
4	エクセル基礎	エクセルの使い方についての授業、フィルターやデータの並び替え、vlookup関数やピボットテーブル機能の使い方について学んでデータ処理に応用できるようにしたい。(既にあって自分が取っていなかっただけの可能性もあります。)
5	食品化学	醸造物や微生物腐敗、でんぷんの糊化やメイラード反応についてなど、化学や生物の食品への応用について。結果的に自分が食品関係の職に就いたのもあるが、個人的には普段口にする食品と化学や生物との繋がりには興味が湧きやすい。また、食品メーカーへの就職者が一定数いらっしゃるなら、就職後に直接活かせるため授業としてあっても良いのかなと思った。(人と自然と数学の食品バージョンのイメージ)
6	化学系の科目	有機材料や無機材料がどのような反応が起こるのかを、教えてくれるようなもの。
7	チーム開発演習	コロナ禍ということもあり、実習や演習では個人で進められるものが多かった。しかし、実際には一人で開発することよりもチームで進めていくことが多いと感じており、チームでの開発経験は非常に重要であると考えている。よって何人かで構成される班で開発演習を行うような場があればうれしい。
8	実際の有機合成実験を具体的にイメージできる科目	研究室配属でいきなり合成はハードルが高いと感じる。そのため、スライドショーなどを用いて実験の方法を手引きして欲しい。
9	化学数学	化学分野における理論などを理解するのに必要な数学を学ぶ
10		論文の書き方や探し方について学べる科目
11		プログラミングについて学べる授業。Pythonを学ぶ授業があったが、少ししか無かったことと、他の言語についても触れておきたかったと感じたため。
12		もっと専門的な英語の授業。TOEICのための英語の授業はあったが、例えば英語の論文を用いた授業などがあれば、専門知識も身につくと共に専門分野での英語も身につくと思う。
13		法律や経済について学べる授業。
14		形式言語理論について深く学べる科目があると良いかもしれない。
15		実際にディスクリートの部品を使って回路設計することができる科目があれば良かったと感じた。

6. 貴方が学ばれた教養科目のうち、専門的な勉強や研究に役立った科目はありましたか。具体的な授業科目名と、どのような教育内容が役立ったかをご記入ください。(複数回答可)

	授業科目名	どのような教育内容が役に立ったか(その内容)
1	データサイエンス	研究でプログラミングを使うので、機械系の授業だけでなく、プログラミングについての授業もあって研究を始める際に役立った。
2	機械工学実験	実験を行い、レポートにまとめるというのが研究を行い、論文にまとめたりする際に役立つと考える。
3	Interactive English A, B	M-Readerや授業中の英会話を通じて、英語の文献を読むことや、英語でコミュニケーションを取ることに抵抗感が緩和されたと感じています。
4	人と自然と物理学	自然科学の分野における専門用語の定義や伝え方について学ぶ授業内容。 正確かつ分かりやすい文章を書く練習を通じて、科学的な表現力や論理的思考力を養うことができました。これにより、実験結果からポイントを見極め、他者に明確に伝える力が向上しました。
5	東西文化交流史	西洋とアジアの交流の歴史を学ぶ面白い授業で、歴史上の出来事には必ず因果関係が存在することを認識しました。 さらに毎回のレポートでは、その因果関係を過不足なくストーリー立ててまとめる力を養うことができました。 この経験は、論理的に物事を整理し、わかりやすく伝える力の向上に役立っています。
6	フォトニクスⅡ	・レーザ発振現象の基礎を復習する。 ・各種発光材料の特徴、光半導体のバンド構造と物性を理解する。
7	人文地理学	最終レポートが、自分の選んだ地域について人文地理学の観点からまとめるというものだった。授業の内容も踏まえながら文献を調査しレポートにまとめるのは専門科目における実験結果から考察するレポートの書き方とはまた違ったものであり、文献内容のまとめ方について非常に勉強になった。
8	論理設計	コンピュータの基本的な原理について理解することができた。これを理解することで、コンピュータに関する様々な事柄を理解しやすくなった。
9	京の文化・工芸	実際に香堂に伺い聞香体験をすることができ、貴重な経験となった。
10	現代社会に学ぶ問う力・書く力	アイデアの発散と収縮の原理や方法などを学び、以降様々な場面でこの考えを意識している。

## 7. 学部・大学院の教育制度についてお聞きします。

本学では次のような教育プログラムを実施していますが、今後、教育研究等の質の向上を図るために、どのような方策をとりいれたらよいと思われますか。

①平成26年度から、3×3構造改革による学部・大学院一貫グローバル教育プロジェクトとして、1年を4つの学期に分ける「クォーター制」を導入し、学部生の大学院博士前期課程授業科目の履修制限を緩和

②平成26年度から、スーパーグローバル大学創成支援事業による学部学生のTOEIC試験の全員受験及びスピーキングTEST導入などの英語鍛え上げプログラムを実施、大学院教養教育科目の拡充に伴う英語鍛え直しプログラムを実施

### 1 授業に関する意見

グループワークをもう少し増やした授業を取り入れる。

学年が進んでもレポートなどの文章の書き方の正解がわからないことも多いのでアカデミックな文章の書き方に関するプログラムがあればよいと考える。

また、研究発表などの場ではプレゼンテーションを行うことも多いが、ある程度専門的な内容についてプレゼンの作成や発表を行う機会はあまりないと感じているのでそのような機会を作るような授業があると嬉しい。

実験科目の充実：現在、多くの実験が1～2週（1～2回の授業）で完結する形式となっているが、この期間では、得られた結果を踏まえて実験方法を改善したり、再度試行したりするプロセスを十分に経験することが難しいと感じた。研究活動では、目的と結果のギャップを分析し、実験計画を修正して再チャレンジする一連の流れが非常に重要である。このプロセスを学生の段階で体験できるよう、実験期間の拡充や反復実験の機会を設けるカリキュラムが整備されれば、より実践的で深い科学的思考力が身につくと考えます。こうした取り組みにより、学生が主体的に試行錯誤できる学修環境が整い、教育研究の質向上につながると考える。

### 2 英語教育に関する意見

英語を必須科目にする

TOEIC受験だけでなく、専門分野の英語文献の読み方・議論の方法を学ぶ授業を増やすことで、英語も身につかつ英語の論文を読む能力が上がっていることで研究がスムーズに始めれると考える。

②の取り組みに関しては、TOEICを必須受験とするだけでは学生の語学力はそこまで向上しないのではないかと思います。

海外と比較して英語力が足りていないと感じる。そのため、スピーキングの授業などを必修化することが必要である。

大学院生になると英語論文を読む機会が増えるので、英語の学術論文のスキルを学ぶことができるような方策があればよいと思う。

### 3 異分野融合・多文化共生に関する意見

数多くの留学生が留学に来ている一方で、留学生と一緒に学ぶことができる授業が限られていることが、少しもったいなく感じています。留学生、日本の学生、双方の学びになると思うので、留学生と一緒に学べる機会が増えると良いのではないかと思います。

自分の専門領域である化学に加え、物理学・数学・情報科学など関連分野を横断的に学べるカリキュラムや制度を導入することで、専門知識の幅を広げ、研究の発想力を高めることができると考えます。例えば、固体物性の分野では、化学の立場と物理の立場では対象の見方が異なる場合があります。このため、学内外での研究発表会やセミナーを定期的に行い、異分野の学生や教員との活発な議論の場を増やすことにより、自らの研究成果のさらなる理解や応用力の向上にもつながると考えます。このように、学際的学習と議論の場の充実によって、教育研究の質をさらに高められると考えられます。

### 4 その他に関する意見

学部の後期試験の実施

（賢い学生が来てくれると学年の全体的な雰囲気勉強に真面目に取り組む方向に変わる？）

GPAが下がるのを避けるために受講する科目の数を減らす学生が多い。何かしらの方策でこの問題を解決できると良いと考える。

## 8. 博士後期課程への進学についてお聞きます。

本学では、博士後期課程進学者への支援として、次のような項目を実施していますが、進路として博士後期課程進学を積極的に選択できるようにするには、どのような方策を取り入れたらよいと思われますか。

①一般入試による博士後期課程入学者の授業料全額免除(令和4年度から)

②京都工芸繊維大学大学基金奨学生を募集し、採用者に対して返済不要の奨学金(1人あたり100万円)を支給

③各種のフェローシッププログラムを実施し、選考された対象者に研究費、生活費相当額を支給

④博士後期課程での活動の魅力の伝達及び進学後の生活や進路等に関する不安の軽減を目的として、「博士進学説明会」を開催

⑤長期間かつ有給のインターンシップを博士後期課程の正規科目として単位認定する「ジョブ型研究インターンシップ」の開設

### 1 経済的支援に関する意見

やはり金銭的な不安がネックになるので、博士後期課程学生の月々のキャッシュフローのモデルケースなどを提示して不安を解消する取り組みも必要なのではないかと考える。

生活支援の対象をさらに拡充する。

給与をもっと引き上げる。現状大学の支援のみでは生活を送ることが困難である。

### 2 キャリアに関する意見

就職への強みをつくる

個人的には、博士後期課程修了後の進路に対する不安が大きいと感じています。修了時の年齢が27歳前後となる可能性が高く、社会に出るタイミングとして一般的な学生より遅れる印象があるためです。そのため、博士後期課程の修了が就職活動において有利に働く仕組みや、就職に向けた支援体制の充実、あるいは働きながら博士後期課程に通うことを支援する制度等が整備されると、不安が緩和されるのではないかと考えています。

博士後期課程進学に際して多くの学生が抱える不安は、特に修了後の進路、つまり最低3年間の博士学生としての研究活動を終えたとき、果たしてそこには自分の居場所があるのかという点にあります。この不安を軽減し、博士進学への期待を高めるためには、大学からの説明だけでなく、企業や卒業生から直接メッセージを受け取る機会が重要だと考えます。具体的には、企業研究者や本学博士課程修了者を招いた講演や対話の機会を設けることで、博士課程での学びが将来のキャリアや活躍の場にどう結びつくかを具体的に示すことができ、学生の安心感と進学意欲の向上につながります。

### 3 指導体制や制度に関する意見

博士後期課程の卒業に必要な要件の透明化

主に単位数ではなく論文などの業績に関して

### 4 博士課程進学に関する広報・進学意欲向上・機会の確保に関する意見

研究室内で、博士後期課程についての詳しい情報を伝達する。全体での説明会だと開催されている事を知らなかったり、参加に少し抵抗があったりするため。

博士後期課程で実際にどのようなことをしているのかを知る機会を設ける。

博士後期課程進学者の生活が具体的にイメージできるような説明会などの取り入れ

9. 学内施設・設備についてお聞きます。4段階で評価してください。

	とても満足した	ある程度満足した	あまり満足しなかった	不満であった
①講義室	4	10	0	0
②実験室、演習室環境	4	10	0	0
③コンピュータ使用環境	3	7	3	1
④ネットワーク接続環境	1	4	5	4
⑤大学ホームページの内容	3	11	0	0
⑥学務課ホームページの内容	3	11	0	0
⑦学生情報ポータルの内容	3	11	0	0
⑧図書館(蔵書、雑誌、その他)	5	7	2	0
⑨体育館その他の運動用施設	3	7	3	1
⑩トイレ	0	4	10	0
⑪生協・食堂	2	9	2	1
⑫課外活動施設	2	8	3	1
⑬その他キャンパス環境について	2	11	0	1

(一番多い回答を濃い色、2番目に多い回答を薄い色で色付けしています。)

10.学内施設・設備について具体的な改善点があれば記入してください。(複数回答可)

①講義室	経年劣化が激しい。
②実験室 演習室環境	経年劣化が激しい。
③コンピュータ 使用環境	自習時にコンセントを利用しながらパソコンを使用できるスペースが限られているため、充電しながら長時間作業できる環境が整うと大変助かります。
④ネットワーク 接続環境	少し繋がりにくいので繋がりをよくして欲しい。
	徐々に改善されていると感じますが、学部三回生の時、演習室(一号館三階)でWi-Fiに接続できず、不便を感じていました。
	Wi-Fiのカバー範囲が狭く、学部の頃は講義室等でも接続が不安定なことがあった(現在はすでに改善されているのかもしれない)。
	kit Xがくるまでの回線が非常に悪かったイメージがある。kit Xがきてからも回線が繋がりにくいことがあったような記憶がある。
	ネットがたまに重たくなる
	特にKITnetは収容人数の多い講義室では接続しづらくなることが多く、実質的にインターネットを活用した講義は難しいと感じた。ある程度利用人数を考慮した設備の強化も視野に入れるべきだと思う。
	繋がりにくいところがある。
⑧図書館 (蔵書、雑誌、 その他)	学期初め頃のmoodleの接続がすごく重い。wifi環境があまり良くない。
	キャンパス内の一部エリアで電波が不安定で、オンライン資料の閲覧や提出に支障が出ることがあります。Wi-Fiアクセスポイントの増設など、通信環境の強化を望みます。
⑨体育館 その他の 運動用施設	最近発売されている専門書の蔵書が乏しい。
	一度の貸出手続きで利用できる期間が比較的に短いので、長期的な学習やレポート作成の際にやや不便に感じます。貸出期間の延長や再貸出の簡略化があるとより利用しやすくなると思います。
⑩トイレ	少し体育館の天井が低い
	匂いがきつい
	10号館の2階に女子トイレがないのが不便
	同じキャンパスの中でも、建物によって設備や清潔さに大きな差があり、不便さを感じる。
	トイレの便座が冷たい所があるので、温かくしてほしかった。
	たまに、和式トイレがある。
	掃除が行き届いていない部分も多い
	新しいところとそうでないところの差が激しい。
⑪生協・食堂	7号館5階のトイレの水圧が弱いので改善してほしい。
	建物によって設備の新旧の差が大きく、古い棟では清潔さや利用しやすさの面で改善の余地を感じます。段階的な改修が進むとより快適になると思います。
	少し高い
	昼休みなどにキャパシティ不足になっている時期がある。キッチンカーなども活用して少なくとも休憩中に余裕をもって食事をとれるような環境は作るべきだと感じた。
⑫課外活動施設	休暇中は特に営業時間が短く、研究活動を行う学生の活動時間とあっていない。
	グラウンドの除草
⑬その他キャンパス 環境について	建物内の廊下の床や壁が汚い。
	気軽に利用できるカフェスペースがあると嬉しいという声をよく耳にします。

11. 本学の良かった点、改善すべき点等、率直なご意見、ご要望を記入してください。

1、良かった点

(教育・制度について)

個性的な学生が多くて授業の専門性も高いので、授業や研究もそれ以外の学生生活もとても充実していました。

自主性を重んじる校風で、苦勞する場面もありましたが、のびのびと学ぶことができ、とても良かったと思っています。また、デザインコースに所属しながら、二級建築士試験受験資格を取れるようなカリキュラムである点が、デザインのための視点を増やすという観点でとても良いと感じているので、ぜひ続けて欲しいです。

博士後期課程の入学料・授業料免除など、本学ならではの制度が進学の大きなきっかけとなりました。

授業の難易度がちょうど良かった。

小テストやレポートがおおく、期末テスト一発で成績が決まらなかったこと。

専門分野について体系的に学ぶことができる点が良い。

研究に関する指導も充実していると思う。

学生と教員の距離が近い点は良いと感じる。

24時間出入りでき、自分のペースで研究できる点

(環境について)

落ち着いた学習・研究環境で集中できる点が本学の良さだと感じます。

真面目な学生が多く、周りの雰囲気のおかげで頑張れたタイミングがあった点。

立地。

(設備・施設等について)

私自身の経験では、12号館2階の休憩スペースができたばかりの頃、Wi-Fiルーターが未設置でネットワークにアクセスできなかった際、大学に相談したところ迅速に対応して設置してくれました。このような柔軟な対応は大変助かります。

2、改善点

(教育・制度について)

私は新型コロナの影響で学部2年生はほとんど大学に通えなかったため、特に化学実験の経験がなく技術や知識が身に付いているか実感がなくまま進級したことに対しては不安が大きかったです。

応用生物学課程の学生実験の紙が昔のものを使い回されていて、手順が異なることが多々あったので(口頭で説明はいただいているが)、手間ではあるけれど学生目線では毎年更新していただきたい。

主要科目について解説付きの過去問が公開されると、学習内容の理解が深まり、試験対策にも役立つため、より効果的な学修支援になると考えます。

(設備・施設等について)

メールにおいて、学外からアクセスする際に毎回OTP認証を行わないといけないのが少し不便である。

キャンパス内の建物の手入れには偏りがあり、汚れている建物は依然として改善されていません。学生及び研究者が日常生活を送る空間の整備も、本学の今後の重要な課題であると考えます。

施設が老朽化しており、不便と感じる瞬間が多々あった。

夜間の街灯が暗く、段差などが見えない。

自転車の制限をする割に駐輪スペースが狭い。

土日祝に開門される門は制限されるが、駐輪場から遠い。(食堂南側の駐輪場に自転車がある場合、自転車制限の障害物があるので、どの門からも出ることができない)

個室タイプのコワーキングスペースや、周囲を気にせず集中できる静かなワークブースが整備されると、より一層勉学・研究に取り組みやすくなると思います。

(連絡・周知方法等について)

具体的には覚えていないが、授業の連絡事項などの確認すべき情報が散りばめられていたイメージがある(学務課やポータルやメールやムードル)。授業の連絡はこのサイトで行う等先生によって差が出ないように統一していただくと見落としが少なくなると思った。

ムードルの科目登録の際にkeyが記載されていなくてシラバスのコードを入れる必要があった。(恐らくシラバスの番号を入れて下さいという案内無し)  
たまたま友人から何も書いてなくてkeyがかかっている場合は、シラバスのコードを入れると登録できるとの情報を聞いたため解決したが、初めは分からなかった。

**(環境について)**

近隣のスーパーやドラッグストアと提携し、学生が受けられる特典があると、学生生活の支援として大変ありがたいと感じます。